

GSSC 同窓会



目次

1. 会長挨拶
2. 組織について
 - a. 沿革
 - b. 会員
 - c. 役員
3. 活動について
 - a. 2015 年度活動方針
 - b. 年間行事およびプロジェクト
 - ① 春の学習相談
 - ② 同窓会（修了祝賀会）
 - ③ ミニ同窓会（スクーリング）
 - ④ オープン大学院
 - ⑤ 震災復興支援
 - ⑥ 「いわき通信」
 - ⑦ 入学資料配布プロジェクト
 - ⑧ 『GSSC参考文献検索の手引き』 編集。
 - ⑨ 『GSSC スタディ・ガイド』 作成
 - c. 修了生情報データベース
 - d. サポートーズ・バンク
 - e. 年間スケジュール
4. GSSC 同窓会 HP
5. 同窓会窓口
6. 同窓生からの便り

1. 会長挨拶

2015 年 5 月

拝啓 皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、日本大学大学院総合社会情報研究科同窓会（以下、GSSC 同窓会）の会長を拝命致しました木下義文（国際情報専攻第 14 期生、現在博士後期課程在籍）と申します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

GSSC 同窓会は、2013 年 3 月、設立準備委員の皆様、本研究科の教職員の皆様の多大なるご尽力のおかげで誕生いたしました。1999 年 4 月に我が国初の通信制大学院として発足し、2003 年 4 月には博士後期課程も開設された、通信制大学院のフロント・ランナーとしての本研究科からは、多くの修了生が巣立っていかれました。

そうした修了生の皆様の生涯教育支援と交流ネットワーク作り、およびこれを基盤としての研究科の教育・研究力の向上を目的に GSSC 同窓会は設立されました。

GSSC 同窓会のこれまで 2 年間の主な活動といたしましては、新入生・現役生を対象とした文献検索方法の説明・学習相談会、日本大学通信教育部の夏期スクーリングにおいての本研究科入学資料の配布、本研究科夏期および冬期スクーリング時やオープン大学院時の同窓会などであります。また、東日本大震災の復興支援活動といたしまして「震災復興支援 in FUKUSHIMA—いわきの子供たちに本を送る—プロジェクト」や被災地の現状を伝える「いわき通信」もあります。

一方、各地域、各研究室等の単位で修了生の方々が活動され、親睦を深めていらっしゃることも聞いております。そうしたそれぞれの活動を尊重しつつ、それぞれの活動を線で結び、GSSC 同窓会の面としての活動につなげていけたら素晴らしいのではないかと考えております。

なお、GSSC 同窓会では、主に同窓会で企画したプロジェクトのお手伝いをして頂ける方のリストとして、「サポーターズ・バンク」を開設しております。より多くの同窓生にお力添えを頂戴できれば幸いです。

同窓生の皆様に、ご協力、ご指導賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

敬具

GSSC 同窓会 会長 木下義文

2. 組織について

a. 沿革

2013 年 3 月 25 日

日本大学大学院総合社会情報研究科（GSSC）同窓会設立

b. 会員

本会の会員は、本会の目的に賛同し、本大学院を修了した者、本大学院に入学したことのある者、教職員で構成されます。

c. 役員 第 2 期(2015, 2016 年度)

会長 木下義文（国際情報専攻）

副会長 先浦宏紀（国際情報専攻）

監事 大津良恵（人間科学専攻）

幹事 大塚奈奈絵（文化情報専攻）

「いわき通信」担当

久野明日香（文化情報専攻）

同窓会 HP ニュースレター担当

中嶋千秋（文化情報専攻）

同窓会 HP 担当 同窓会 HP 編集長

松山献（文化情報専攻）

同窓会員図書・出版関係担当

村田教枝（人間科学専攻）

芳崎文香（国際情報専攻）

教員 荒関仁志 池上清子 泉龍太郎 階戸照雄 竹野一雄

田中堅一郎 保坂敏子 松岡直美 眞邊一近

事務課職員 加藤琢哉（代表）

3. 活動について

GSSC 同窓会は研究科修了生の生涯教育継続支援と交流ネットワーク作り、およびこれを基盤としての研究科の教育・研究力の向上を目的としております。

a. 2015 年 GSSC 同窓会活動方針

- ① 学生参加 FD 活動（教育・研究力の向上）の推進
- ② 同窓会支部ネットワーク（国内外）編成

b. 年間行事およびプロジェクト

- ① 春の学習相談：新入生へのレポート作成や研究の進め方、履修、修論についてのアドバイスや質問・疑問に答え、大学院を有意義に過ごして頂くために支援します。博士後期課程研究（中間）発表会と同時開催。
- ② 同窓会（修了祝賀会）：毎年 3 月 25 日に行われる学位伝達式後の修了祝賀会と同時開催。
- ③ ミニ同窓会：毎年、スクーリング（夏期・冬期）の期間中に開催。
- ④ オープン大学院 懇親会・同窓会：毎年 10 月に開催されるオープン大学院では、各専攻の修了生および在校生による研究発表等が行われます。大学院進学相談会、図書展示会、そして懇親会に合わせて同窓会を開催します。
- ⑤ 震災復興支援：「震災復興支援 in FUKUSHIMA ―いわきの子供たちに本を送る―プロジェクト」では、2012 年度に 1,700 冊の図書を送りました。これらの本は、いわきの子供たちによって、市内総合病院・医院・調剤薬局へも配布されました。
- ⑥ 「いわき通信」（GSSC 同窓会 HP 参照）：いわき在住の文化情報専攻 12 期生の吉田裕美さんからの、被災地の現状を伝えるメール集です。3.11 から 4 年、これからも語り伝えていきます。
- ⑦ 入学資料配布プロジェクト：日本大学通信教育部の夏期スクーリング等において入学案内および修了生体験記を配布します。
- ⑧ 『GSSC 参考文献検索の手引き』編纂：GSSC 同窓会 HP に掲載。随時、更改。
- ⑨ GSSC スタディ・ガイド』作成

c. 修了生情報データベース

同窓生の皆様へイベントのお知らせや各種案内を配信するため、皆様の連絡先メールアドレスを登録するためのデータベースです。

d. サポートーズ・バンク

主に同窓会で企画したプロジェクトをお手伝いして頂ける方のリストです。各種プロジェクトを実施するには、同窓会役員だけでは手が足りませんので、皆様の支援を必要としています。皆様に積極的にプロジェクトへ参加して頂くことで、同窓生や在学生との交流を深めてネットワークを拡大すること、また、各種プロジェクトを通して皆様の研究や研究力の発展につなげることを目的としています。

e. 2015 年度 年間スケジュール

5 月 30 日（土）	春の学習相談 博士後期課程研究（中間）発表会同時開催
7 月 19 日（日）	ミニ同窓会（夏期スクーリング第 2 日目）
8 月	資料配布プロジェクト（日大通信教育部夏期スクーリング）
10 月 10 日（土）	博士前期課程研究（中間）発表会
10 月 17 日（土）	ミニ同窓会（オープン大学院）
11 月 22 日（日）	ミニ同窓会（冬期スクーリング第 2 日目）
3 月 25 日（金）	修了祝賀会・同窓会

* 日程は都合で変更になる場合がございますので予めご了承ください。

4. GSSC 同窓会 HP : http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~gssc_alumni/

HP への情報掲載・投稿をご希望の方は、下記同窓会窓口まで掲載内容を添付の上、ご連絡ください。

件名：【情報掲載希望： 修了生・在校生 または 教職員】

修了生・在校生の方は中嶋千秋（同窓会 HP 編集長）宛てに、
教職員の方は松岡直美（文化情報専攻教員）宛てにお送り下さい。

5. 同窓会窓口 : gssc.alumni@nihon-u.ac.jp

年末年始は窓口をお休みさせていただきます。また、即日返信できない場合がありますので、ご了承ください。

6. 同窓生からの便り (2015 年 3 月)

a. 同窓会のご案内をありがとうございました。私は、この 3 月に東京外国語大学留学生日本語教育センターおよび千葉大学国際教育センターの勤務を終えることとなりました。この夏からは外語大グローバル・ジャパン・オフィスの日本語教育プロジェクトに参加し、ミャンマーのヤンゴン大学で日本語教育を担当することとなりました。そのため、3 月 24 日から 1 週間の予定で、ミャンマー視察に出向きます。同窓会の当日、日本におりませんので、出席かなわず、残念ですが、どうぞ、みなさまによろしくお伝えください。微力ながら日本語教育の世界でもう少しがんばっていくつもりです。(S. I.)

b. 昨年 9 月にお会いしてから、早いものでもう半年が経ち、今また、日本に一時帰国しております。今回は来学期の準備をしながらも時間的に余裕をつくる予定でおりましたところ、日本へ来る直前に新しい課題ができ、実家でパソコンに向かう毎日です。

アーヘンでの日本語講座はおかげさまで順調で、此の度、所属する言語センターが文学部から独立することを機に(正式には今秋からですが)、かねてから懸案だったポジションがやっと現実の話になります。しかし、提出必要書類の中に小学校の卒業証明があるという話で、さすがドイツ!? 日本滞在中に幾つかの書類を調えなければならないようです。

14 日の面接ゼミの日は亡父の 3 回忌のお墓参りがあり、23 日にドイツに戻るので、修了祝賀会・同窓会にも出席できず、今回は残念ながら、失礼させていただきます。

これまでの 1、2 年は修論以外に新しいモジュールの開発、教科書の切り替えなどと並行して週 24～28 時間の授業に追われていましたが、来学期からは週 20 時間と決めたので、今後は研究にも前向きに目を向けていくつもりです。(K. S.)

c. 『いわき通信』の吉田裕美さんから皆さんへ

震災後の福島を皆さんのご尽力によって、報道とは違う側面から情報を発信し続けてこれましたことに心から感謝いたします。総合社会情報研究科という分野で学べたからこそ『いわき通信』だと思います。HP に携わって

下さった皆様には、原発事故後から継続して【福島の今】に触れる場を作って頂き、ありがたい気持ちで一杯です。見聞きした内容を一方的に報じるのではなく、受け取った側からの意見も得られるというのは総合社会情報研究科ならではの環境であると思います。

多くの情報は、政治や思想、科学的専門知識をもってして様々に分析され、報道されていきます。メディアは日々、新しい紛争、事故、災害を報じ、昨日の事件を振り返る間もありません。東日本大震災についても、毎年 3 月 11 日に合わせ、特集を組まれる過去の史実となりつつあります。

報道がそのような形態にあっても尚、『いわき通信』を通して福島の日常を支援し続けて下さっている日本大学大学院総合社会情報研究科ならびに同窓会の皆様の姿勢に頭が上がりません。

2011 年 3 月の修了祝賀会の壇上にてお話させていただきました「ランドセル一つを抱え泥にまみれ裸足で逃げてきた少女」は今年 4 月、おかげさまで中学生になります。汚染水、中間貯蔵施設、廃炉などの単語が、「おはよう」「いただきます」と同じ日常にあるこのいわき市で彼女は高校へ進学し、卒業後は地元の看護学校で学び、ふるさとで看護師として働きたいと語ってくれました。

昨日、いわきへいらっしゃった松岡先生に、お荷物になってしまうと知りつつ、子供達の描いた壁新聞をお渡ししてしまいました。連休中の混雑した電車の中、さぞ置き場に困ったことでしょう。先生ごめんなさい。ガサばる大きな筒を胸にかかえ、手を振って帰られた先生の後姿に、【寄り添う】ということの尊さを教えて頂きました。

拙くも一生懸命描いた壁新聞の中に、是非、皆様が支え続けた少女を探して下さい。そしてまた、いつの日か機会がございましたら、3.11 に福島に生まれた子供達が描く壁新聞を、皆様のもとへ届けたいと思っております。私が総合社会情報研究科で学んだこと、それはこの「未来への情報」を発信し続ける事だと考えております。

支援を続けて下さった大学院関係の皆様、同窓会の皆様へ何卒よろしくお伝え願いませんでしょうか。顔も見せずに文面だけで申し訳ございません。ご無礼をどうかお許し下さい。

宮澤さん、添付の引き継ぎ資料ありがとうございます。お仕事と並行した編集作業、本当に御苦勞様でした。

大塚さん、卒業祝いの沢山の本、大塚さんに代わって子供達に届けます。
どの本も私自身が読みたいです。（後で子供達から借りて読もう！）

松岡先生には、4年の歳月で地盤が沈下し、海拔がゼロの状態で汚染水が
打ち上げられている道路や事故後から放置状態で劣化した汚染袋を見て頂き
ました。お忙しい中、お越し下さり、先生ご自身の目で福島の間を見て下さ
ったことがとても嬉しかったです。

